

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 精神・発達医療学教育研究分野 氏名 吉田恵心
指導教授氏名	中村 和彦
論文審査担当者	主 査 井原一成 副 査 下田 浩 副 査 加藤博之
<p>(論文題目) The factor structure and construct validity of the parent-reported Inventory of Callous-Unemotional Traits among school-aged children and adolescents (学齢児童と生徒における親評価 CU 特性尺度の因子構造と妥当性)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究は、弘前市内全小中学校に所属する 6 歳から 15 歳までの児童、生徒 (10936 名) に対し実施された親評価による CU 特性尺度 (Inventory of Callous-Unemotional Traits: ICU) の信頼性と妥当性を検証したものである。</p> <p>Callous-Unemotional (CU) 特性とは、冷淡さと無感情、非共感性を有する特性であり、素行障害の重症度を予測する特性の一つであるとされ国際的に注目を集めている。これまで CU 特性を評価する尺度が幾つか提案されているが、ICU は、24 項目の質問紙であり無料で利用可能であるという利便さから、21 か国語に翻訳され最も広く利用されている。しかし、国内では、ICU の標準化自体が行われていなかった。</p> <p>本研究では、初めに先行研究のシステマティックレビューを行い、先行研究で示された 15 の因子モデルについて確認的因子分析を施行し、12 項目の短縮版 ICU の 2 因子パイファクター (2 FBF) モデルの適合度が最も高いことが確認した。さらにこの因子モデルは年齢、性別の影響を受けず、性別に関わらず幅広い年齢帯で利用できることを確認した。</p> <p>さらに 2 FBF モデルについて、行為の問題や向社会性を下位項目に含む the Strengths and Difficulties Questionnaire: (SDQ) との横断的相関と、縦断的相関 (2 年後の SDQ スコアの得点) を重回帰分析にて解析し、ICU における総得点、冷淡さ因子得点、無関心さの因子得点は SDQ の各因子と有意に相関のあることを示した。また重回帰分析における ICU と 2 年後の SDQ 得点との縦断的相関では、ICU 得点の高さは 2 年後の SDQ における各因子と有意に関連を示し、特に問題行動の高得点、向社交性の低得点を強く予測することを示した。</p> <p>本研究により、親評価 ICU において、項目数を 12 項目に減少した短縮版 ICU の 2 FBF モデルが最適モデルであることが明らかになり、その信頼性と妥当性が示された。本研究は、大規模な疫学サンプルを用いて CU 特性が年齢の影響を受けないことを示すなど学術的意義が高く、今後の研究の発展性の期待されるものであり、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	PLOS ONE 14(8): e0221046